

全国中心市街地活性化 まちづくり連絡会議

第7回 勉強会 in 松山市

平成 22 年 10 月 6～7 日、「全国中心市街地活性化まちづくり連絡会議第 7 回勉強会」が愛媛県松山市で開催されました。

今回の勉強会には、24 社 73 名（賛助会員等）と多数の皆様にご参加いただきました。

《第 1 日目》

第 1 日目は、13 時 30 分から国際ホテル松山にて勉強会が開催されました。

はじめに、鈴木会長（豊田まちづくり㈱）から、「正岡子規を輩出した松山市で、これまでの勉強会で最も多い参加者を迎え、第 7 回勉強会が開催できることを嬉しく思う。準備をして下さった松山市、㈱まちづくり松山及び松山商工会議所、多数の出席を頂いた国交省（後援）、経産省他

皆様へ御礼を申し上げます。また、本年より会費有料化を実施し、会員数は 57 社となっております、



本格的な自主運営を開始した」等の御挨拶と御報告を頂きました。

次に、開催地を代表し、松山市の稲葉副市長より、「松山市は人口減少や少子高齢化により中心市街地にかかる課題が顕著に



表れている。地域が一体となった取り組みが必要であり、坂の上の雲ミュージアムや坊ちゃん列車など官民連携による街づくりの取り組みを進めている。今後も“いで湯と城と文化のまち”松山の活性化に取り組み、オンリーワンの街を目指す」と御説明を交えた御挨拶を頂きました。



の施策・支援を積極的に考えている」等との御挨拶を頂きました。

その後、㈱まちづくり松山の日野社長より、多くの方々の出席を頂いた御礼と、パネルディスカッションでは、松山での取組に關



続いて、来賓として国土交通省都市・地域整備局まちづくり推進課鹿子木企画専門官より、「“新成長戦略”の中で掲げられた“新しい公共”は、まちづくりの分野で言えば“まち会社”が新しい公共の担い手そのものである。今後

わる多くの関係者が話をする事となっており、出席者の皆様にとって有意義なものとなることを期待する旨の御挨拶を頂きました。

■現況発表

『中心市街地活性化について』と題し、松山市の 4 つのセクションより、それぞれの取組内容について発表を頂きました。主な内容は以下の通りです。

- 中心市街地活性化の現状（総合政策部坂の上の雲まちづくりチーム）
 - ・中心市街地を巡る状況や旧法に基づく中心市街地活性化基本計画の取組み
 - ・現在の松山市中心市街地活性化基本計画（平成 20 年 11 月認定）の概要や主な取組み
- 中心市街地活性化に向けた再開発の取組み（都市整備部都市開発課）
 - ・中心市街地における戦後の戦災復興土地区画整理事業を始めとする経緯から、現在の再開発計画や取組み
- 中心市街地の商業振興について（産業経済部地域経済課）
 - ・中心商店街の現在の状況
 - ・商業活性化戦略や取組み
- 観光客で賑わい続けるまちへ（産業経済部観光産業振興課）
 - ・現在の観光分野における課題
 - ・『坂の上の雲』のまち松山の観光まちづくり事業についてのビジョンや事業概要



■問題提起・パネルディスカッション

●パネルディスカッション

「民間でできるまちづくり(瓢箪から駒)」と題し、タウンマネージャーの前田眞氏をコーディネーターに、6人のパネリストによるパネルディスカッションが行われました。



はじめに、前田氏より「松山市の中心市街地のまちづくりは大きな壁を乗り越えながら進んできた。商店街振興組合独自路線の展開でやれてきた時代は、官民がすれ違い、商店街同士のコミュニケーションさえとろうとしなかった。それでも都市構造のよさもあり賑わうことができた。しかし、大店法の改正に伴う大型店との競争時代へ突入し、個別の活動の限界を痛感し、官民協働の必要性が再認識されてきた。今日は、松山で瓢箪から駒が生まれてきたのは何故か…をパネラーとのディスカッションを通して解き明かしていきたい。」と問題提起がなされ、続けてパネラー紹介と、各パネラーからのそれぞれ個別発表が行われました。

○(株)まちづくり松山 日野社長

まちづくり松山設立の経緯
まちづくり松山が果たしてきた役割、今後の役割

○(株)まちづくり松山 平松取締役

収益事業(広告、映像、駐車券)の概要
今後のまちづくり松山に求められている事業展開

○(株)まちづくり松山 田中総括マネージャー

映像事業を継続・発展させるために必要なこと
収益確保のポイント

○お城下松山 竹田理事長

お城下松山設立の必要性はどこにあったのか
お城下松山の活動目標と今後の展開について

○お城下松山 山下販促担当理事

これまでの実施してきたイベントの紹介
百貨店と地元商店街の協働について

○お城下松山 林CSR委員長

CSR活動の事例紹介
参加団体と今後の課題について

●パネルディスカッション まとめ

民間でできるまちづくり活動は、協働が欠かせないものになる。松山市では、松山青年塾という活動が官民の協働の種まきにつながり、商店街マネジメント事業が官民の協働の苗床となり、まちづくり松山の活動が協働の芽を出すきっかけを作った。さらに、協働の重要性に気づいた人たちが、お城下松山を設立し、民民による協働事業を構築している。

これらの協働に向けた取組みが、駒を生み出す元となっている。協働に必要なものは何と言っても目標の共有であり、今のままではだめだという危機感の共有でもある。

■情報提供

時間の制約から、国の中心市街地活性化に係る支援策とこれらを活用した取組事例等について、ポイントを絞って情報提供を頂きました。

○国交省 都市・地域整備局 まちづくり推進課 鹿子木企画専門官

中心市街地の活性化関連施策の動向について
～まちづくりの支援に関する予算等の概要～

○国交省 四国地方整備局 建設部 森口都市・住宅整備課長

四国地方における中心市街地活性化の取組事例
～四万十市・西条市の取組み事例～

○経産省 商業流通グループ 流通政策課 中心市街地活性化室 大塚室長補佐

平成23年度中心市街地関連予算概算要求の概要

○経産省 四国経済産業局商業・流通・サービス産業課 三野課長補佐

四国における経済産業省の戦略的中心市街地商業等活性化事業による支援
～地域の商店街を活性化したい～

■交流会

国際ホテル松山南館2階「聚楽の間」において、鈴木会長の御挨拶及び国交省鹿子木専門官による乾杯から交流会は始まりました。(株)まちづくり松山の御配慮により様々な食事と飲み物を楽しむことが出来る



盛大な交流会となりました。最後は、(株)まちづくり松山日野社長の締めで閉会となりました。

《第2日目》

■現地視察

第2日目は、朝、会場ホテルにて30分ほどの概要説明の後、松山市の中心市街地の現地視察を実施しました。約60名の参加の中で2班に分かれ、㈱まちづくり松山、松山市及び松山商工会議所の職員の皆様により、約2kmにわたる行程を3時間ほどかけて御案内頂きました。

坂の上の雲ミュージアム



松山市の施設である坂の上の雲ミュージアム及びスペシャルドラマ館における松山の歴史探索等を皮切りに、ロープウェー通りを抜け、大手百貨店の「三越」と「高島屋」を結ぶ約1キロに及ぶ一大アーケード「大街道」から「銀天街」という商店街を視察するルートで実施しました。

ドラマ館



途中、当該エリアでの課題となっている駐車場問題を解決すべく、㈱まちづくり松山さんの事業構想の御紹介や、中には空き店舗を利活用したチャレンジショップの見学なども織り込まれ、また、「愛媛では蛇口を捻ればみかんジュースが出る」という話の実現？として、ぎんこい市場さんにおいて蛇口から出てきたみかんジュースを頂戴した次第です。当日は道後秋祭りとも重なり、商店街もかなりの活気に満ちており、松山市の盛り上がりも実感させて頂きました。

商店街 大街道（左）と銀天街（右）



坊ちゃん列車



商店街内部



チャレンジショップと内部



■最後に

今回の勉強会の開催地として事前準備含めいろいろな取り組みを実施頂きました方々、特に㈱まちづくり松山、松山市及び松山商工会議所の職員の皆様に御礼を申し上げますとともに、次回は平成23年2月17、18日に宮崎県宮崎市において第8回勉強会を開催予定ですので、引き続き多くの会員の皆様方の御参加をお待ちしております。



全国中心市街地活性化まちづくり連絡会議
会長 豊田まちづくり(株)

作成/平成22年10月